

## 令和3年度中学校武道授業（なぎなた）指導法研究事業



令和3年度中学校武道授業（なぎなた）指導法研究事業（主催＝日本武道館・全日本なぎなた連盟・日本武道協議会、後援＝スポーツ庁）は10月15日・16日、大阪府大阪市立墨江丘中学校およびホテルアウリーナ大阪会議室で研究者4名が出席して行われた。本事業は平成24年度から完全実施された中学校武道必修化の充実へ向け、なぎなたの特性を踏まえた指導計画、指導内容、指導法、評価などについて研究協議をするものである。

開講式は、墨江丘中学校の多目的室において、はじめに全日本なぎなた連盟常務理事の今浦千信研究者が挨拶を行い、次に、日本武道館振興部長の鈴木達也、続いて視察協力校を代表して墨江丘中学校の林憲治郎校長が挨拶を述べた。

その後、体育館に場所を移すと、生徒たちが主体となって授業前のランニング、体操、補強運動等を行っていた。

授業は星見香織教諭が主になって行い、

「気剣体一致」や「残心」といった武道特有の心構えの説明から始まり、体さばきと構え、星見教諭対生徒の1対多数で行う実技、打ち返し、ペア学習等を行った。生徒たちは集中して、あきらめることなく取り組んでいた。特に大切な事項として指導されたのは、「相手としかけ応じをする際は緊張感を持ち、呼吸を合わせる楽しさを学ぶ」ということだった。その後は、まとめへと移った。授業の始めと終わりには座礼を行い、礼法がしっかりと実践されていた。

翌日、ホテルアウリーナ大阪会議室において、研究者のほか、墨江丘中学校教諭3名を交えて「授業の振り返り」の会議を行なった。

先生方からは、「緊張感や空気感を生徒たちで作っていく過程や、できる生徒ができない生徒に教えることでお互い成長していくことができる、といった点がなぎなた授業の良さである」という発言があった。

閉講式では、研究者を代表して今浦研究者が講評を、鈴木振興部長が研究者、協力中学校に対し御礼を述べ、全日程が終了した。